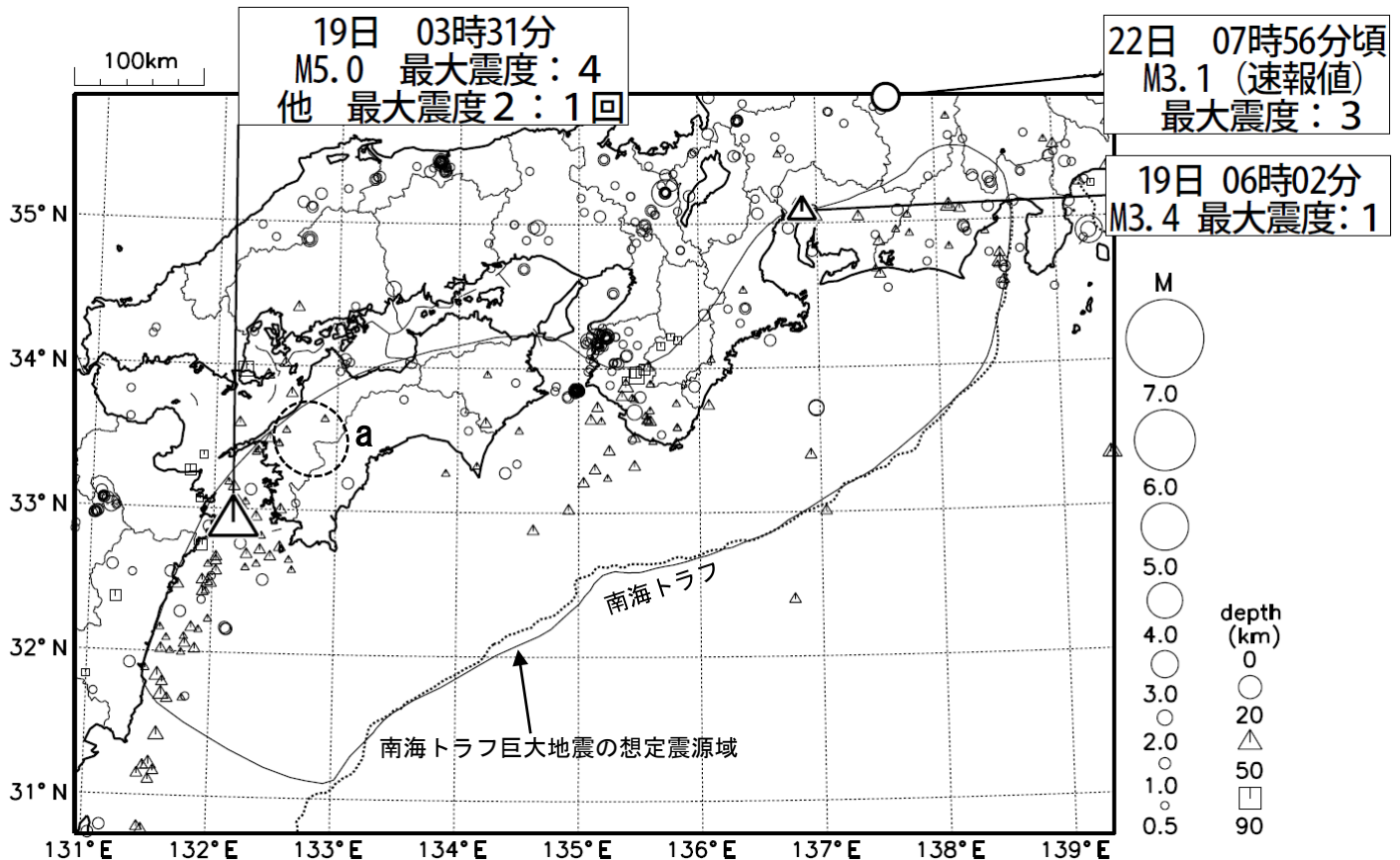


南海トラフ周辺の週間地震活動概況 No. 8

*震源時、震央地名、マグニチュード等は、再調査により修正することがある。

震央分布図（平成30年2月16日～2月22日）



“南海トラフ巨大地震の想定震源域で震度1以上を観測した地震もしくはM3.5以上の地震”及び“その他注目した地震”に「震源時、マグニチュード、最大震度」を付している（M $\geq$ 0.5、震源の深さ0～90km）。

[概況]

愛媛県付近のプレート境界深部で短期的ゆっくりすべりが発生したと推定される。
19日03時31分に、豊後水道の深さ40kmで、M5.0の地震（最大震度4）が発生した。

[主な地震活動]

・19日03時31分に、豊後水道の深さ40kmで、M5.0の地震が発生した。ほぼ同時刻にほぼ同じ場所でM5.0の地震が発生した。これらの地震により、愛媛県、高知県、大分県で震度4を観測した。この地震は、フィリピン海プレート内部で発生した。また、同日03時35分にはM3.9の地震（最大震度2）が発生するなど、地震活動が継続している。

[主な深部低周波地震（微動）活動^{※1}と地殻変動]

・21日以降、愛媛県（領域a）を震央とする深部低周波地震（微動）を観測している。深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、愛媛県、高知県に設置されている複数のひずみ計^{※2}に変化が現れている。これらは、プレート境界深部において発生している短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

[その他の地域]

・22日07時56分頃に、長野県南部の深さ約10kmで、M3.1（速報値）の地震（最大震度3）が発生した。この地震は、地殻内で発生した。

※1：上の震央分布図には、震源決定精度が高い地震の震央のみを表示している。このため、震源決定精度が低い深部低周波地震（微動）の震央は表示していない。

※2：国立研究開発法人 産業技術総合研究所のひずみ計。